

第6回新居浜市レジ袋削減推進協議会議事録

- 1 開催日時 平成22年10月12日(火) 14:00～15:50
- 2 開催場所 新居浜市消防庁舎コミュニティー防災センター(4F)
- 3 出席者
(新居浜市) 会長 環境部長
事務局 環境部総括次長、ごみ減量課長
ごみ減量課係長
(スーパー) コープえひめ、イオンリテール(株)、(株)フジ、マックスバリュ西日本(株)
(株)ママイ
(ドラッグストア) (株)レディ薬局
(関係団体) 新居浜商工会議所
(消費者団体等) にいはま環境市民会議、にいはま消費者友の会
グループさつき生活学校
- 4 欠席者
(スーパー) (株)木村チェーン、(株)マルナカ、(株)マルヨシセンター
(ドラッグストア) (株)大屋マック
(ホームセンター) ダイキ(株)
- 5 報道関係
1社(愛媛新聞社)

6 内 容

(事務局)

みなさんこんにちは、定刻が参りましたので、ただ今から第5回新居浜市レジ袋削減推進協議会を開催いたします。

まず初めに、本日の出席状況ですが、欠席の連絡をいただいておりますのが、木村チェーン、マルナカ、マルヨシセンター、マック、ダイキ、新居浜市女性連合協議会様からは「所用のため欠席」との連絡を受けております。

それから、本協議会はいつも通り公開を原則に開催いたしております。

それでは、以下議事は会長にお願いします。

(会長)

みなさんこんにちは。

本日は大変お忙しい中、多数ご出席頂き誠にありがとうございます。日頃よりレジ袋の削減をはじめ「地球温暖化の防止」に取り組んでいただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。また、協議会の開催が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。

本日は、会次第のとおり「レジ袋無料配布中止 1 周年キャンペーン」、「アンケート調査結果」これらの結果を報告させていただきまして、今後の活動につきまして皆さまのご意見をお伺いしたいと考えております。

先ず、会に先立ちまして、前会長の加藤前環境部長が退職し、私が暫定的に会長として会に出席させていただいておりますが、規約により「会長は互選により選任する」こととなっておりますので、どなたかご推薦等ございましたらよろしく願いいたします。

(環境市民会議)

引き続き環境部長にお願いしたい。

(一同異議なし)

(会長)

それでは、私が引き続きやらせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは「レジ袋無料配布中止 1 周年キャンペーンの反省」につきまして事務局よりご説明させていただきます。

(事務局)

資料 (1 ページ) により説明

(会長)

本日は、木村チェーンさんがご欠席ですが、キャンペーンに参加された事業者さんから何かご意見はございませんでしょうか。

(コープ)

1 周年ということでキャンペーンをやらせていただきまして、我々のところは組合員さんを中心に改めてマイバッグの持参というものを訴えさせていただきましたが、取り組みとしては、そう言ったことも含めて改めて市民の皆さんへアピールできたという意味では良かったと思っておりますが、結果と言いますか、実際にそれを契機に更に買い物袋の持参率が上がればよかったのですが、さほど持参率は変わってないということもありまして、資料のお客さまの声にもありますが「たまには 5 円で買う。」というように、

ごみ袋として使えると言うのが現状ですので、持参率というのは周知するどころ以前の問題として、この程度に納まってしまうのかなという風な感じは持っております。キャンペーン自体は良かったと思います。

(イオン)

私どもも同じような内容ですけれども、レジ袋無料配布中止のアピールはこれまで通り続けて行けばいいと思いますけれども、数字自体は若干上がったかな、と思ったのですが、また元に戻っておりますのでこういったキャンペーンを地道にやって行くしかないのかな。と思っております、現状は数字がほとんど固定したままとなっておりますので、更にステップアップした活動をして行かないとこれ以上の結果は望めないのかな、と感じているところです。

(フジ)

キャンペーンということで、特に持参率が上がったということはございませんが、ただ、すでに80～85%台の間にはいるので充分浸透しているのかな、という風には考えております。また、このキャンペーンの期間中、お店の方で何か問合せとか、お客様から何かなかったかどうか確認しましたが、全くそういったことはなかったそうで、新居浜市さんの準備だとか上手く行ったと思います。

(マックスバリュ)

キャンペーン中の効果はあったと思います。抽選応募数が少なかったことは残念ですが。あと、もうひとつはレジ袋の販売枚数が最近増えつつある。資料にもあったのですが、1枚5円がごみ袋を買うより安いみたいです。その辺りで「レジ袋が5円するからマイバッグを持参する。」ではなくなってきたと思います。環境のためにマイバッグを持参して下さい。というのはもちろんそうなのですが、今後もアピールして行かないと持参率は上がって行かないと思います。

(ママイ)

弊社も各企業さんのご意見とほとんど同じなのですが、レジ袋無料配布中止が始まって一度持参率が落ち込んだときがありまして、それまで平均85%台だったのですが、それでも1周年キャンペーンを境に85%台を維持しております。ただ、マックスバリュさんも言うておられましたけれども、ごみ袋として買うのが当たり前になりつつあります。マイバッグを持参していただいている方はそうですが、持参されない方は5円払ってでも買うのが当たり前になりつつある。という現状がございます店舗ごとにそういった傾向が出てきております。店舗ごとに報告させてもらっておりますが、やはり上部地区におきましては、レジ袋を配布していない企業がおられることもあり上部地区の

店舗では82%前後の数字に落ち着きつつあります。実施当初はもう少し高い水準で推移しておりましたので、そういった部分は当然企業として努力しなければならないと感じておりますし、また、市を上げての啓発等についても引き続き行っていただきたいと感じております。

(にいはま環境市民会議)

ひとつは目的なのですが、このキャンペーンによって持参率が上がればいいのですが、それ以外に市民活動と言いますか、お店だけではなくて市民が中心となってやっているんだ。ということをPRする機会として、レジ袋を通して省エネ、省資源を啓発するという、そういう意味もあると思いますので、やっぱりキャンペーンはやるべきだと思います。どうしてもお店だけだとお金といった部分が強調されますので、行政、市民全体でやっているということに意義があると思います。もうひとつは、私も家内から「この頃、レジ袋を5円で買っている人が多い。」と聞きまして、なるほどと思ったのですが、例えば100円ショップで100円の商品を買っても5円税金が付くので、「買っても安いものだ」と言いますか、そういう範疇に入ってきたのでしょうか。ですからその意識と、省エネ、省資源は別問題であって、1枚5円で袋を買うのであればそれはそれでいいのではないのでしょうか。ゴミ袋は買わなければならないわけですからそれも良いのかな、という気はしております。

(にいはま環境市民会議)

確かにお店で見えておりますと、マイバッグを持っているのに「ゴミ袋に良いから」と購入されている方がおられます。この活動を継続することはとても良いことですが、これ以上のものになるかと言うと、現状を見る限りならないのではと感じております。ですから、他の地域で条例ができたように、やり方を考えないと伸びて行かないし、ゴミ袋を買うのであればレジ袋は2~3人世帯に丁度良いんですよね。レジ袋を削減して行く立場にはあるのですが、見方を変えるとレジ袋を買う方の気持ちもわかるような気がします。ゴミ出しにも結構使われています。「エコの面から考えたら」等と私たちは生意気なことを言っておりますが、もうちょっと現実にあったやり方を考えないといけないと感じております。

(消費者友の会)

マイバッグの持参が癖になっていますから持って行かないと気になって、また、衣料品を買った際の袋をスーパーでの買い物に使ったりして、レジ袋を5円で買わないようにしているのですが、先ほどおっしゃいましたけれど、5円で買うと言うことに抵抗がない方もたくさんいらっしゃって、それはそれで変わらないと思いますし、私たちはマイバッグを持参するというでずっと行くのではないかと感じております。将来どの

ようになるかわかりませんが、現在の水準は上がりも下がりもしないのではないかと思います。

(グループさつき)

ごみを出すのに袋は必要だと思いますが、余分のいらぬ袋をごみにして燃やしてしまうと無駄になってしまうと思います。レジ袋無料配布中止前は本当にレジ袋がいっぱいいたまらして、引き出しの中にいっぱいになってしまつて最後は捨てる。ということをしていました。今はほとんどもらつておりませんので、お金を出してごみ袋を買いますが、やはりサイズが大きいので重いものとか、少しだけごみを捨てたいとき等はレジ袋が確かに便利です。レジ袋タイプのごみ袋も売つていますが、5円というのは確かに安いと思います。私は、レジ袋の無料配布中止に参加していないスーパーが近くなのでよく利用するのですが、「レジ袋いりません」の札を入れるのを忘れたときはレジ袋を入れてくれるんですが、大体大きい袋で二つくらい買い物をして帰るのですが、6枚も入れてくれます。だから結局それが余ります。企業にしてみれば、それが「親切」なのでしょうが。目で見ると数というものは非常にわかりやすいので、市の方の催し物のときに「1週間に2回お買い物に行くとしてレジ袋が何枚。」と計算して実際に実物を透明なケースに入れて、「ごみとして出すのはこのくらい」とか、ぱつと見て「資源を無駄にしない」ということを市民にPRするようなことをもうちょっとやつて行かなければいけないと思います。

(商工会議所)

皆さんおっしゃつたのですが、レジ袋を5円で買う方が増えてきたということですが、私はこのような会に参加させていただいていることもあつて、マイバッグを忘れたときはマイバッグを購入して買い物をしています。マイバッグを持つことが習慣になつていゝ方は問題ないと思うのですが、レジ袋をごみ袋として使用できるという事情があるので、そこを考える必要があるのではないかと思います。

(会長)

皆さん年に1度くらいはこのよゝなキャンペーンを実施して、継続して行くことが必要であるとのご意見でした。また、レジ袋の購入自体が浸透してしまつてゐるため、5円で買うということについても今後検討する必要があるとのことでした。キャンペーンのやり方につきましては、ごみ袋の必要量がどのくらいかとか、目に見えるアピールを実施したらどうかとのご意見を頂きました。マイバッグの持参についても、レジ袋を買うのではなくて2枚目のマイバッグを買うとか、レジ袋の削減に向けて次のステップを考える必要があるのではないかと感じております。

(コープえひめ)

キャンペーンへの応募者数4,824は少なかった。という評価なのでしょうか。

(事務局)

応募数が多かったか少なかったかの評価につきましては、私どもにとって初めての試みですのでそこまでの評価はしておりませんが、当選確率がもう少し高くても良かったのではないか。という評価はいたしております。そう考えると応募数が予想よりも多かった。と言えると思います。

(にいはま環境市民会議)

ということは、商品の数を増やすしかないのですね。

(事務局)

そういうことになるのですが、ただ今のやり方でこの10倍の応募があった場合は事務的にパンクしてしまいますので、別のやり方を考えないといけません。

(にいはま環境市民会議)

何か買ったときに、その場ですぐわかるようなやり方を考えれば事務的にも楽になるし、応募も増えると思うのですが。

(会長)

そうなると、確認作業にお店の負担が増えるのではないのでしょうか。

この件につきましては、後からまたご意見等お伺いしたいと思いますので、ひとまず終わらせていただきまして次の事項へ移らせていただきたいと思います。それぞれご意見をお伺いした後、最後に来年の活動予定について協議させていただいたと思います。それでは、レジ袋無料配布中止のアンケート調査結果について事務局からご報告いたします。

(事務局)

事務局説明 (資料2ページ)

(にいはま環境市民会議)

「事業者の足並みをそろえるべき。」ということについては、目的を達成しないといつまでもこれが残って、この問題を如何にしてクリアするか、この方法を具体的に考えて動かないと。協議会としては「事業者が足並みを揃える」ということの方に目的を絞る方が大事だと思う。

(会長)

やはり、ごみ袋として利用できるというご意見が多かったのですが、後は、ごみ袋を指定袋にしてレジ袋を使えないようにする、といったご意見もございました。別途、新居浜市地球高温化対策地域協議会においても、このような議論をさせていただいておりますが、ごみ袋の指定袋制につきましては、ごみ減量の観点から議論は続けて行かなければならないと考えております。

(コープえひめ)

「どちらとも言えない」という回答がこれだけあるというのは、レジ袋削減の効果が市民の方々に浸透していないということだと思います。突き詰めればごみ袋に利用できるというようなことがあるから、「何でレジ袋の削減が必要な。」ということがあるのではないかと思います。ですから、もう少し「こういう目的でこういう効果があった。」ということをも更に周知していただくと同時に、先ほどおっしゃったごみ袋の指定袋制度の検討も併せて進めて行っていただきたいと思います。

(にいはま環境市民会議)

アンケートの意見の中にもありますが、「杉の木何本に換算されてもよくわからない。」その辺りのPRの仕方が実感として感じられることが何だろうかと思うのですが、石油換算でもわからないと言われるし。市民にとって「こんなに効果があるのだったらやってみようか。」と考えられるような、例え方の工夫がいるかなと思います。

(会長)

家庭にごみ袋として使う予定のレジ袋が眠っていることも多いと思うのですが、いっぱいたまって使われずに残っているレジ袋が。そういったもの、生活に訴えると言いますか、生活の中で見直してもらおう。そういうことも必要かと思います。

(にいはま環境市民会議)

私も事業者の足並みを揃えることが一番だと思います。これは難しいと思います。アンケートにも「不参加のスーパーに行ってみるとマイバッグの持参率は1割もないのではないか。」とあるように、ごみ袋にも使えるし、それが大きいのかなと思います。とにかく次の課題は、協力して下さっている業者の方にはすごく負担もあるし、足並みを揃えると言うことが必要なのではないのでしょうか。

(会長)

参加していただけていない業者さんに、私もお会いしてお話をさせていただく。という用意はあるのですが、まだ1社さんにはお会いできておりません。協議会への参加も

都合によりご欠席とのお返事を頂いておりますが、別途、お祭り明けに会っていただけるということで連絡を取らせていただいておりますので、まず行政から働き掛けをしたいと考えております。しかし、なかなか難しい状況であると認識しております。

(にいほま環境市民会議)

結果はどうか、姿勢を示すことが先だと思います。

(消費者友の会)

今はレジ袋削減の活動をしておりますが、昔はお店のトレイを減らす活動をしてきました。レジ袋の削減につきましては、少し活動の中身が違ってきて、レジ袋の削減をしながら片方でトレイがたくさん出て廃棄されているということに少し矛盾を感じておりました、レジ袋の削減に集中できない部分が少しございます。

(会長)

訴え方と申しますか、市民へ訴えるものと業者さんの中で努力していただかなければならないものもあると思いますので、その辺はレジ袋もトレイも削減へ向けての認識は一致して持っていただくということが大事かと思っております。レジ袋は一番取り組みやすいと申しますか、一番皆さんが手にするものなので先ずそこから、というのが出発点だと思います。そうしましたら、キャンペーン結果、アンケート調査結果を踏まえまして来年に向けて、市の予算、レジ袋削減に向けた事業者の拡大等について事務局の方からご説明いたします。

(事務局)

事務局説明

1. 来年度の活動について

- キャンペーンは6/1～7の1週間で集中して実施したい。(店頭での啓発活動)

チラシ、ポケットティッシュの配布、のぼりの設置等(資料P7～9)

- 条例制定の検討(資料P3～6)

市としては、現在の状況下においてレジ袋無料配布中止協力事業者の拡大は極めて困難である、と考えている。

(会長)

キャンペーンの方からご意見をお伺いしたいと思います。

(コープえひめ)

キャンペーンは節目で実施するのは良いと思います。1年を経過して2年目へ向けて、レジ袋削減の市民の方々への浸透も進化しておりますので、市民の方々へ訴える中身と

かを検討して実施していただければと考えております。

(イオン)

市長さんにも参加いただいてPRをお願いしたいと思っております。また、レジ袋辞退率の推移を見ておりますと、夕方(17:00~18:00)以降大きく下がっておりますので、市民団体の方は大変だと思っておりますが夕方に実施していただければ、と考えております。

(フジ)

新しいアイデアは無いのですが、1年に1回市民団体の方々にも協力いただき、キャンペーン活動を継続するということが必要だと思うし良いことだと思います。

(マックスバリュ)

費用対効果でお客さまにメリットがあるかという点、無いと思います。自然のために。とか、マイバッグで買い物をするのがスマートでおしゃれである。といったようなイメージとそのことによってレジ袋を削減したことで、一般家庭でこの位の効果がある。といったようなPRができれば説得力があるかもしれませんが。また、「5円でレジ袋を購入する方がごみ袋を購入するより良い。」と言われるお客さまが増えてきておりますので、「レジ袋の削減活動は金のためにやっているのではない。」という部分をキャンペーンで訴える必要があるのではないかと思います。

(会長)

例えば、一般家庭において削減したレジ袋に相当するような電気代を削減しようとする、どのくらいの努力が必要か。など、市民の方にわかりやすい表現を考えてPRする必要がある。ということですね。

(マックスバリュ)

マイバッグを持って買い物に行くのが当たり前。それは、こういう理由だからです。というような、5円取られるからマイバッグを持って行くのではない。ということではないことをPRする必要があると思います。

(ママイ)

レジ袋無料配布中止導入時のキャンペーンに近い形になると思いますが、今月(10月)は「3R推進月間」でもありますし、そのような活動と協調してレジ袋無料配布中止のPRも実施すれば効果があるのではないのでしょうか。また、スーパーは女性がお客さまですので、女性がマイバッグを持つことがトレンドになるようなPRの方法もあると思います。あと、「マイかご」は非常に便利だと最近感じておりまして、そちらの

方のPRも実施していただければと思います。

(会長)

昔は買い物といえば「買い物かご」でした。どこにでも持っていけるか、という部分でネックはあると思いますが。

(ママイ)

マイかごは、お車でお買い物される方でなければ使いにくいですから。

(にいほま環境市民会議)

この件については、新居浜市地球高温化対策地域協議会の方でも検討しており、多くの企業の方にご参加いただいておりますので、職場をとおして周知してもらおう。ということを行えば効果があると思います。もうひとつは、マックスバリュさんがおっしゃられた意義の問題ですが、レジ袋を削減してどれだけの効果があるかということ、環境問題全体からすれば小さいもので、どちらかと言えば象徴的な精神論になるのですが、そういう所をカバーしようと思えば教育が最も効果的で、小学校でPRすることも考えてはどうでしょうか。

(会長)

現在、新居浜市第5次長期総合計画を策定中でもうすぐ答申されると思いますが、その中でも、環境においては教育が重要で学校教育と連携しなければ継続は難しいと言われており、そのような方向で計画を立てているところですが、もう少し具体的にどういったことができるか、ということも盛り込んでいければと思います。

(にいほま環境市民会議)

地球規模で大きなことを言っても実感がわからないので、「あなたの家庭でこれだけレジ袋を削減したらこんな効果がありますよ。」ということをチラシの中に記載するのもいいなと思います。それから、夕方以降のキャンペーン実施については、17時から18時とか皆さんが買い物に行く時間帯に実施すればいいと思います。それと、最近ドラッグストアとかコンビニによく行かれると思いますが、そういう所にのぼりの設置を市からお願いするとか、お店にはお店の事情もあると思いますので強制はできませんがPRにはなると思います。

(グループさつき)

レジ袋削減は本当に些細なことかもしれませんが、そのことで新居浜市民のゴミに対する考え方というものは変わってきたと思います。衣類のリサイクルということで市役所の中に回収ボックスを設置したり、また私の住んでいる泉川校区では月に1回資源ご

み回収を行っておりますので、ごみステーションに出ているゴミが少なくなったと思います。次の世代により良い環境を引き継ぐために、60代以上の方で、割と考えて生活されている方が増えたように感じております。資源を大切にすることの方が一番大切だと思いますので、些細な誰にでもできるようなことから始めないと、大きなことは企業、市役所にしてください。私も常に袋を二つ持ち歩いておりますが、レジ袋の削減も習慣になると苦になりません。皆が意識してできるようになれば、リユース、リサイクルが活発になると思います。また、生ごみも宝だそうですので、コンポスト等で肥料化してリサイクルできますし、よく水を切っただけでも焼却の際に係る費用が節約できるそうですので、機会があるごとに市民へ呼び掛けることが大切だと思います。

(会長)

資源を大切に。ということで、まず家庭から、ということをお願い続けていきたいと思っております。

キャンペーンについてまとめますと、目的や内容について明確になるようにもう少し考えて行くということと、実施の時間帯につきましては、レジ袋辞退率が下がる夕方の時間帯の実施を検討する。それと、レジ袋削減効果についての表現方法をもう少し考える、ということにつきましてはチラシ等の作製の中で検討してまいりたいと思っております。キャンペーンの実施時期については、3R月間等、国や県との連携を考えたかどうか、とのご意見を頂きました。来年へ向けてそのあたりのことについて検討してまいりたいと思っております。

(にいはま環境市民会議)

抽選はもうやめるのですか。

(会長)

来年は周知活動のみ、ということで提案させていただいたのですが。のぼりの件につきましては、無料配布中止に協力いただいている事業者さんだけでなく、それ以外の事業者さんにもお願いできないか、ということで資料8ページに案を出させていただいております。お買い物にはマイバッグをご利用ください。という内容でレジ袋の削減活動を拡大して行きたい、との意味合で協議会として活動してはどうかと思ひまして提案いたしました。

(にいはま環境市民会議)

ちょっと質問なのですが、レジ袋の削減活動で一番上手く行っている都市はどこですか、どのような状況ですか。

(事務局)

一番上手く行っていると言いますか、活動が長いのは杉並区だと思います。当初はレジ袋税を賦課することを検討していましたが、現在は、事業者がレジ袋の削減計画と削減状況を区に報告しなければならない条例を制定して、レジ袋無料配布中止の協定と併せて活動しているようです。区のホームページに店舗の写真等も掲載しています。

(事務局)

今言ったのは、条例化している自治体ということで杉並区の例をあげましたが、レジ袋無料配布中止の取り組みについては県単位でしているところもありますし、県単位で実施しているところは当然参加事業者も多いので問題も少ないのではないかという気はします。

(にいはま環境市民会議)

それも全部の事業者が協力している訳ではないのでしょ。

(事務局)

全部ではないと思います。

(マックスバリュ)

いや、ほぼ全部が参加しています。

(にいはま環境市民会議)

県でやればそれだけの効果があるということですか。

(マックスバリュ)

市町村単位でも、私どもが参加させていただいているところではほぼ100%に近い状態で参加されています。それは、レジ袋ではごみが出せない、ごみ袋として使用できないというのが根底にあると思います。ですからお客さまにとっても、もともとレジ袋がごみ袋として使えないという状況があるので活動がしやすいのでしょう。エリアによって違いがあるので一概には言えませんが。

(にいはま環境市民会議)

レジ袋がごみ袋として使用できないとなった場合に、どの程度マイバッグの持参率が上がるかですね。それでも5円をだして買う人がいるかどうかですね。ごみ袋の指定はどのような方法があるのでしょうか。

(会長)

ごみ袋で市町村が実施しているのは、ごみ出しに使用できる袋を指定する「指定袋制」と、ごみ収集の有料化です。有料化でごみ袋を指定するやり方です。

(にいはま環境市民会議)

レジ袋の削減がメインの目的で、有料化でごみ袋を作ってそこに費用を掛ける方法がいいのかどうか、そこから先が難しいのですが。

(会長)

今日はレディ薬局さんに来ていただいているのですが、資料8ページにあるようなのぼりを設置していただくことについてはどうでしょうか。

(レディ薬局)

愛媛県の方で今月3Rキャンペーンをやっておりまして、私どもの方では店内放送くらいしか実施できてないのですが、ドラッグ業界自体新居浜市も激戦区でして足並みが揃わないと難しいと感じております。私どもはメディコ21さんと合併したところなのですが、新居浜市さんのような形で支援して頂ければ、営業部の方針といたしましてはドラッグが揃ってやるのであればもう少し前向きに検討できます。のぼりの件はできるだけ設置できるように検討いたします。

(会長)

条例化についてですが、協定に参加されていない業者さんも条例化されればレジ袋削減計画、レジ袋削減状況の報告義務が生じるのですが、そのことによって無料配布中止を義務付けることはできませんので、「レジ袋を削減しましょう。」という方向でレジ袋の使用枚数を報告いただき、削減目標も立てていただいて協力いただくこととなります。条例化している、また検討している自治体もございますので新居浜市も検討する必要があるということで議題に上げさせていただきました。

(にいはま環境市民会議)

条例の対象はどういったところになるのですか。レジ袋を使用している事業者全部ですか。

(事務局)

対象事業者の条件がそれぞれ異なるのですが、すでに条例化しているところで共通しているのは、食品衛生法に基づく食品販売の許可を得ているということです。後は、レジ袋の年間使用枚数が10万枚以上、20万枚以上とか、枚数で対象事業者を確定しています。そうすると、現在協議会に参加いただいているDAIKIさんは対象事業者か

ら外れます。現在協議会に参加いただいていない業種ではコンビニエンスストアが対象業種になると思います。杉並区のレジ袋削減報告書を見てみますと、コンビニは 30%前後のマイバッグ等率となっております。新居浜市で条例化を検討する場合は、対象事業者をどのような範囲にするかということを協議会で検討する必要があると考えております。また、店舗面積を基準としている事例もございます。

(事務局)

先ほどレディ薬局さんも言われておりましたが、ドラッグストア間でも足並みがそろうかどうかは今のところはっきりしておりませんし、協議会にも参加しない。とおっしゃられた事業者さんもおられますので、足並みが揃うのを待って。ということだといつまでも拡大はできないので、例えば条例化という手段であれば、取り組み内容のレベルは下がるかもしれませんが、多くのところに何らかの取り組みをしていただける、という足掛かりを作ることができるかもしれないと考えております。

(会長)

条例化については、もう少し行政の方で研究もして、いくつか案も作ってお示したいと思います。

(コープえひめ)

条例化の時期は考えておられますか。

(会長)

まだ、そこまでは考えておりません。

(コープえひめ)

参加されていないスーパーさんも、条例化すれば参加する。ということは言われておりましたが。

(事務局)

参加のレベルもありますが、例えば、今はレジ袋の枚数のカウントもしていない。という事業者さんが、条例化によって報告義務が生じれば、レジ袋の使用枚数のカウントをするようになる。といったレベルです。

(コープえひめ)

今はスタンプ制でやっています。というところが、それで引き続きやる。ということ

でもOKなのですね。

(事務局)

他市の条例の事例では、それで問題ありません。そのことが、今の無料配布中止をしている状況下において、好影響なのか、それともレベルが落ちる方向に行ってしまうのか、ということも充分考えたうえで実施する必要があると思います。

あと、レジ袋の削減効果のPR方法を考える、ということについてですが、「レジ袋だけだと、ゴミ袋を購入する量が増えているのではないか。」という疑問の声がアンケートにも寄せられておりますので、例えばゴミ全体を減らすきっかけにしています。とか、しましょう。というような内容も入れていかないと、市民の理解が得られないと思いますので、例えば、お店の方でレジ袋以外にこういう努力もしています。環境のためにご協力をお願いします。など入れたらいい内容がありましたら教えていただけたらと思います。チラシの中に全て書ききれぬかどうかわかりませんが、スーパーのトレイ回収等は認知されていると思いますが、それ以外のことについても市民へ紹介できることがあると思いますので、そのような件についても是非お願いしたいと思います。

(いはいま環境市民会議)

括りとしては、ゴミの削減ということになるのですかね。

(事務局)

そのことについてレジ袋だけで訴えるのは説明できない部分もありますし、ゴミ全体のことももっと考えてもらうという下地があって、そこにレジ袋があって、その他のこともあって、という方法でPRした方がいいのではないかと考えております。

(会長)

本日の議題は以上になりますが、その他に何かございませんでしょうか。

(コープえひめ)

木村さんがレジ袋代金を任意で徴収されているとのことですが、状況はどのようなのでしょうか。

(事務局)

現在、木村チェーン川東店1店舗で、レジ袋を購入された方の代金を任意で料金箱の方へ入れていただくという取り組みをしております。レジ袋販売枚数とか徴収代金についてのご報告はいただいておりますが、レジ袋を購入されたお客様は、お釣り等を料金箱の方へ入れられているようです。金額も溜まってきたので新居浜市の方へ寄附し

たいとお話は伺っております。今のところ、レジ袋無料配布中止の方法を変更したことによって大きな問題はない。とも伺っております。

(ママイ)

基本は善意ですよ。

(事務局)

そうですね。条例にすると対象事業者がはっきりすると、マイバッグ等の持参率、レジ袋削減枚数の情報は新居浜市へ入ってくるようになりますが、取り組み方法については、それぞれ事業者さんの裁量で決めることとなります。今は、協定によってレジ袋の無料配布中止に協力いただいておりますが、新居浜市といたしましては、無料配布中止に協力いただける事業者さんを拡大したい。という面とスーパー以外の事業者さんも含めてレジ袋を削減して行く。という両面ございますので、今の状況でレジ袋の無料配布中止の事業者が拡大するかどうかというかなり難しい。というところもございまして、レジ袋削減の業種を広げて行くということについても、市として何らか手を打って行きたいと考えているところです。そういった意味で条例化ということをご提案させていただきました。

(マックスバリュ)

ルールで縛ることになるのですけれども、今の状況から考えると条例も必要なのではないかと。どちらかという、自主的にやる方がいいと思いますが、今の状況ではそのことも検討する必要があるのではないかと。

(事務局)

資料にはございませんが、浜松市さんは協定によってレジ袋の無料配布中止を実施しておりまして、新居浜市と同様に透明・半透明のごみ袋であればごみ出し可能なのですが、今年度から「レジ袋をごみ袋として使用できない。」とのルールを設けて運用しております。また、レジ袋を内袋として使うことも「できるだけ使わないように」との方法でごみ収集を決めているようですが、マスコミ報道等によるとかなり反発が大きいようです。ごみ袋の指定袋制につきましては、ごみの減量という目的で、レジ袋の削減とは別に検討しなければならないと考えております。

(会長)

次回の予定はどのようにいたしましょうか。

(事務局)

キャンペーンの内容を具体的にして、条例については対象事業者の選定について、何

パターンかの結果を提示したいと思います。ですので、年明け2月位に開催をお願いしたいと考えております。

(会長)

それでは、そのような予定で委員の皆さんに早めにご連絡させていただきたいと思えます。本日は長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。これをもちまして第6回の協議会を終了させていただきます。

ありがとうございました。